

FD 戦略による教員海外派遣・調査研修 報告書

外国語教育センター 講師 馮 日珍

研 修 先：中国ハルビン工程大学、北京師範大学

期 間：2013 年 8 月 12 日～2013 年 8 月 18 日

研修内容：中国の大学における言語教育（外国語、中国語）についての現地調査

ハルビン工程大学

1953 年に「中国人民解放軍軍事工程学院」として設立。1978 年に全国重点大学として指定された。1994 年に名称を現在の「ハルビン工程大学」に変更。現在理工系を中心に 19 のカレッジと 4 つの学部、センターを持ち、在籍学生数 25000 余名。中国最大の船舶工業、海洋開発分野の専門大学である。



図書館、地下1階、地上6階

今回は国際合作教育学院の招待を受けて、対外漢語教育（外国人への中国語教育）についての交流をおこなった。

本学院の杜宏権先生は現在国別の外国人向け中国語教材作成のプロジェクトに参加しており、その教材構成や作成方法などのお話をうかがうことができた。

筆者も中上級の授業では中国で作成された教材を使用することが多いが、内容が現地での生活をテーマにしていることが多く、使ってみるとその構成が日本の教育カリキュラムに合わなかったり、現地で生活（留学）していないとわかりにくい箇所があったりするので選択や利用法に苦心している。今回、直接教材執筆に携わっている先生とお話できたことは大変有意義であった。

現在、杜先生が参加されているプロジェクトは東南アジア向けの教材に着手していて、教科書を中心に、e-learning 教材などの補助教材も充実させていく予定で、今後は日本、韓国、欧米諸国向けなど順次開発していく計画だそうだ。

このほかハルビン工程大学は理工系という特徴から外国語教育においてもメディア言語実験センター（座席総数は 1364 席）、教員用メディア授業準備センター、外国語放送局、コンピュータ利用教育教室（CAI）などを備えている（HP による）。これらの設備やシステム、そしてその利用などの見学を希望したが、夏休み中で担当者不在ということでできなかった。

北京師範大学

北京師範大学は中国で最も歴史ある高等教育機関のひとつに数えられ、もとは教育系大学として、現在は22の学院、6の学部、14の専攻研究所および多数の研究センターから成る総合大学である。総学生数10000余名。世界各国から1500余名の留学生在籍している。

漢語文化学院には本科、修士、博士課程も設置され、入門者から教員養成までおこなっており、中国教育には定評がある。今回は毎年夏に実施されている中国語教育のサマースクールを2日間にわたり見学させていただいた。

サマースクールではレベル別に1クラス約10名ほどで学生により2~4週間勉強するプログラムである。授業は主に午前中で、午後は自由参加で補講や太極拳を学ぶこともできる。授業は会話を中心ですべて中国語のみで進められる。教材も大学作成の教材を使用し、学んだ会話をすぐその日の午後から使えるように留学生活に密着した内容になっている。



授業見学のあとで担当の先生と意見交換もでき、授業の進め方やインターネットなどを利用した視聴覚情報の利用状況、利用法などの意見交換をすることができた。

ハルビン工科大学、北京師範大学の2校の訪問で、教材作り、教材の利用について現場の先生方に話を聞いたこと、また授業参観で実際の教材の使われ方を見学できたことは有意義であった。特に日本では入門、初級レベルの教材は数多あるが、中上級レベルは少なく、中文専攻の学生には輸入教材を使っているのも、今回の成果は今後の教室活動には非いかしたいと思う。また、実際に現場の先生方と知りあえたので、今後も互いに協力し合えるようにしたいと思う。

最後に北京師範大学のサマースクールに参加している各国の学生が、できる限りの中国語を使って一生懸命クラスメートや現地の人たちと交流する姿を見て、また参加学生へのインタビューから、初級レベルの学生でも現地で語学体験することがレベルアップのきっかけになり、今後の学習への励みになると感じた。